みなと物語

港区で大博覧会!?

大正時代に入り、港区は農村から商工業地や住宅地として飛躍的に発展しました。大正5年、当時曲技飛行で有名であった飛行家アート・スミス氏による飛行大会が府立市岡中学校(現在の府立市岡高校)北の埋立地で企画され、多くの見物人が集まりました。しかし、興行主の不手際でスミス氏の到着が遅れたため会場は大混乱となり、待ちくたびれた群衆が飛行機を壊すなど、たいへんな騒動になったと当時の新聞は伝えています。翌年(大正6年)には、新池田町で、アメリカ女流飛行家スチンソン氏が華麗な曲技飛行を披露したそうです。

「機上のスミス氏」 橋爪紳也著
「絵はがき100年」より出典

「電気大博覧会水晶塔夜景」
大阪市立図書館蔵

大正15年には、西田中町、田中元町一帯、安治川遊園地を中心とする約五万坪を会場として「電気大博覧会」が開催されました。電気事業の振興と電気知識の普及が目的でしたが、当時出始めたラヂオの普及宣伝も兼ねていました。場内では電気自動車の実演、そしてラヂオ塔・摩天楼・港温泉・港劇場などの施設があり、夜間には美しい電飾が見られるなど大人気を博しました。

その他市立運動場(現在の八幡屋公園)で開催された第6回極東選手権大会(大正12年)など、港区の大正時代は大きなイベントがたくさん開催されてにぎわった時代でした。

「電気大博覧会全景図絵1926」部分 大阪市立図書館蔵